



## 【信仰の器通りに！】

説教: 鄭南哲牧師

チョンナムテョル

聖書: 列王記第二4章1-7節 / 暗唱聖句: 詩篇40篇17節

(Rev. Jung nam-chul)

もう新しい10月が始まりました！朝晩の気温が大分涼しくなり、日中の温度差が激しくなっています。一週間もみなさん、お元気でしたか。始まった10月中にも主の見守りと平安をお祈り申し上げます！

## &lt; 本文の説明 &gt;

今日列王記第二4章に出ているある女は夫がすでに天に召されました未亡人の方でした。彼女の夫は今日で言うと、神様のために献身し、神学校に入った神学生でした。預言者の学びを受けていた夫は神様を信じ、神の為に献身された者でしたが、突然召されてしまいます。彼が死んだ後、妻に残したのは借金と二人の息子だけでした。夫が死んだ後、貸主(かいぬし)が来て借金の代わりに、二人の息子を奴隷として連れて行こうとしています。主人はいなくなり、家庭は借金だらけ、家は食べ物もない貧しい家庭！どう見てもとっても可哀そうでみじめな女ではないでしょうか。あまりにも苦しくて女は預言者エリシャにたずねて来て、助けを求めています。(第二列王記4章1節)

我々はまずこの御言葉をとおして神様をちゃんと信じている信仰の家庭にも苦しみを受け、人生の苦難を経験する時もあることを教えられます。神様を熱心に信じていた家庭なのに、貧しくなったり、色々苦しめられる時もあります。

当時大預言者エリヤの弟子だった預言者エリシャにこの女が来て事情を話し、助けを求めます。

エリシャはこの女の問題を解決させてあげるため、女の家で持っている物は何かを聞きます。

**「エリシャは彼女に言った。「何をしてあげようか。私に話しなさい。あなたには、家の中に何があるのか。」彼女は答えた。「はし**

**ためには、家の中に何もありません。ただ、油の壺一つしかありません。」(列王記第二4章2節)**

女の家に持っていた物は本の少ししか残ってない油の壺一つしかありませんでした。エリシャはとなりに行って他の器をも借りて来て、背後の戸(と)を閉じて、借りて来たすべての器に油をつぐようと命じます。エリシャのお言葉にその未亡人は従った時、エリヤの時と同じように神のすばらしい奇跡の御業が起こりました。そして未亡人の家の借金が解決され、さらにこれからのすべての生活も十分できるように神様は油を満たして下さったのが今日の聖書の内容であります。

**今日の御言葉を通してお知られる神はどんなお方でしょうか。****①神は我々の家庭の苦しみを覚えておられ、顧みて下さるお方**

今日の本文で、預言者エリシャにたずねて来ている女は夫を失い、借金をかかえている苦しんでいる家庭でした。なぜ、聖書はこの女の話の記録に残して下さっているのでしょうか。神様はなぜ預言者エリシャを通して、この未亡人の家庭を助けて下さったのでしょうか。我々が信じている神は、我々の家庭でかかえている様々な問題や苦しみによく覚えておられ、顧みて下さるお方です。そして、具体的に、実際に助けて下さるお方であります。我々の家庭で今足りない事、必要さ、苦しんでいるのなやみなどもご存知であることを表して下さるためです。

古代時代、ご主人を失い、一人の未亡人として2人の子どもを育てている苦勞と絶望をもご存知であることを表して下さるためです。今日神の預言者エリシャを訪ねて来た未亡人は自暴自棄(じぼうじき)する直前の状況でした。もう苦しくて3人一緒に死のうと人生を諦めることも一つの選択肢だったかも知れません。あるいは無気力で二人の息子を貸主に渡してみじめな人生の宿命として受け入れることもできたかも知れません。もしくは、二人の息子を連れて問題から夜逃げすることも可能だったかも知れません。しかし、それは問題から避け、逃げることです！

愛する教会の信仰の家族のみなさん！結局、それは問題を根本的に解決する方法ではありません。苦しくても神に頼り、問題に直面しようと決断する時、解決の扉は開かれ始めます。もちろん、私たちは人生の中、自分たちのまわりに起きてくるすべての問題に対する責任を負うことはできません。災害や命を失う苦しみと喪失の問題など、人が自分の自力で責任を負う問題ではありません。ある出来事や問題は自分たちの選択とは全然関係ないことも多くあります。それにもかかわらず、我々は自分や家庭に起きた問題や出来事にどのように反応すべきかについて、そこから避けようと、逃げようとせずに、あるいは諦めようとせずに、積極的に神に頼る必要があることと、その時、神様が人の想像と考えにまさる不思議な神の方法で我らを助け、問題を解決して下さることを知ることを今日の本文は教えて下さっているのです。

ダビデも一時期あまりにも苦しくて、耐えられない時に、神様にこう祈りながら助けを求めた時があります。

**「私は苦しむ者、貧しい者です。主が私を顧みて下さいますように。あなたは私の助け、私を救い出す方。我が神よ。遅れないでください。」(詩篇40篇17節)**

**「金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない」といわれたからです。」(ヘブル人への手紙(Hebrew) 13章5節)**

愛する信仰の家族のみなさん！必ず、神は我々の家庭を見捨てることなく、問題や苦しみ全てをよく覚えておられ、介入し、解決

して下されるお方である事をいつも忘れないで下さい。夫を失い、借金で息子まで失いそうになった時、もう自分ではこれ以上自分の限界を感じた彼女は、神の人エリシャに訪ねました！つまり、自分の力ではどうしようもできないのに、最後まで自分で全てをやりとうと思わなかった事はとても賢い行動でした。みなさんもいつも問題があるときに一人で悩まないで下さい。信仰の人々に一緒に分かち合える、共に祈りと知恵を求めればさらにすばらしい神の解決が与えられます。共に神の祈りの答え、神の力と豊かな恵みを体験することができるのです。

初代教会時と今日の教会を見て、一番欠けているところが何だと思えますか。本当の神の家族、信仰の家族としての交わりが足りなくなったのではないのでしょうか。今日の教会はほとんど日曜日礼拝だけが多いのです。多いとしても教会で交わることしかありません。そのため信仰生活も大分儀式化になってしまっている為、真の神の御力を体験することがなかなか難しいわけです。しかし、初代教会では教会だけではなく、家でも集まる時には身分や立場も関係なく、みんな平等として共に食事を取り、共に祈り、共に分かち合っただけではなく、自分の物だとも言わず、ともに共有するほどまででした。その神の愛の交わりと仕えが常にあったため、聖霊の力をも常に体験することができたのではありませんか。

## ②神は我らにある小さなものも用いて下されるお方：あなたと家の中に何があるのか。(2節)

神の人エリシャは、この未亡人にお金をあげたわけでもありません。借金を返したわけでもありません。神の預言者エリシャがやってあげたのは、問題の解決策でした。

エリシャはまず未亡人の話をじっと聞きました。そして問題が何であるかを把握し理解します。

問題の核心は、今借金を返すこととこれから生活の為に、お金が必要であることです。神はエリシャを通してこの未亡人の問題をどうやって解決してくださいましたか。もしかすると、神の預言者エリシャにはもっとより簡単な方法でこの未亡人の問題を解決して下さったかも知れません。エリシャは当時王とも関わりがあり、知り合いの官僚たちもたくさんいたはずです(第二列王記4章13節)。エリシャは貧しい預言者でもありましたが、彼は王と将官たちも動かせる知名度と能力のある人でした。エリシャが貸主に会ってなかった事にしろと言ったら、それも可能だったかも知れません。当時エリシャの一言はそれほど権威がありました。神の預言者エリシャには今いくらでも亡くなった神学生の妻と家庭を助ける道はあったはずですが、エリシャはこの未亡人とご家族で問題解決策を教えて、進ませました。なぜでしょうか。そのプロセスを通して、今回だけではなく、これからは様々な問題に直面する時に、同じように問題解決が出来るように、しておきたかったからではないでしょうか。

エリシャが未亡人の家庭の問題を解決してあげるために、こう言われます。「エリシャは彼女に言った。「何をしてあげようか。私に話さない。あなたには、家の中に何があるのか。」(列王記第二章2節)

我々が信じている神は我々が持っていないもの、我々の家庭にないもの、我々ができないことを求め働かれる方ではありません。我々が持っているものが小さいとしてもそれは関係ありません。この女が持っているもの、この家庭にあるものはほんの少ししか残されてない油のつぼ一つ(a little oil)でした。問題の解決は遠くにあるのではなく、今我々が持っている小さなものから始まります！

ところが、ここで我々が注意し、警戒すべきことがあります！それはほかの人が持っているのと自分が持っているのを比較しないことです。比較しないで下さい！ほかの人が何を持てであろうとそれは我々のものではありません！他の家のものが大きく見えてもうらやましく思わないように気をつけましょう。！ところが萎縮したり、小さくならないでください。反対に自分のものが大きく見えて、他の人が持っているものを決して小さくも見ないで下さい！

神様は今我々の持っているもの、小さくても我々の家庭にあるものを用いて働かれます。

神は我々が持っているものの中でそれを生かし、用いて下されるお方であり、必ず、祝福し、神の御業をなされるお方です。

## ③神は我々が備えられた信仰の器の分、その通り満たして下さるお方(3-6節)

「3すると、彼は言った。「外に行って、近所の皆から、器を借りて来なさい。空の器を。それも、一つ二つではいけません。

4家に入ったら、あなたと子どもたちの背後の戸を閉めなさい。そしてすべての器に油を注ぎ入れなさい。いっぱいになったものは、わきに置きなさい。5そこで、彼女は彼のもとから去って行き、彼女と子どもたちが入った背後の戸を閉めた。そして、子どもたちが次々と自分のところに持って来る器に油を注ぎ入れた。6器がどれもいっぱいになったので、彼女は子どもの一人に言った。「もっと器を持って来なさい。」その子どもが彼女に、「もう器はありません。」と言うと、油はとまった。」

エリシャが未亡人に命じたことは決して不可能なことではありません。となりに行って出来るだけ、多くの蓄える壺や器を借りてくることでした(4章3-4節)

もう一度エリシャがこの女に命じたことを注意深く読んで見て下さい。空っぽの器を借りて来るが、なるべくたくさん借りて来るようにと命じました。一つか二つかはいけなく、なるべくたくさんでした！なぜなら、神様は我々が備えた器(信仰)の分を満たして下さるお方だからです！この御言葉を通して、神は私たちの家庭に小さくてもあるものを用いて、我らの家庭を祝福し用いて下さるお方です。それだけじゃなく、我らの家庭を通して、神の祝福を周りの家々にまで満たし、流して下さろうとする神の素晴らしい計画を見る事ができるでしょう。

しかし、その神の満たし、御業を体験するために、器を準備するのは私たちのやるべき分です。しかし、その整えられた器に油を



満たしてくださるのは、神様のなされる分であることが分かります(4章5-6節)

次の箇所を読むたびにおいしいと思うことがあります。この未亡人の息子がもう他の器がないと言った瞬間、油が止まったということです。器がもっとあったならば、もっとたくさんの油をいただけたのです。

ここで教えられ、忘れてはいけないことは、“神様は我々が準備した信仰の器の分だけを満たし、祝福して下さるお方”だということです。事実、今日の未亡人と子どもが準備した器の数は神に対するその家族の信仰を表わします！これは神様が決めてくださるものではありません。それは我々が信じる通り決めることです。

イエス様は奇跡を起こされるたびに、くりかえし言われた言葉があります。“あなたの信仰のどおりになれ”でした。

**神様は生きておられ全能の方です。しかし我々の信仰に応じて働かれます。それが神様の原則です。ですから我々は信仰の器を大きく備えなければなりません。**我々の信仰の器を広げる時我々の環境も違ってきます。信仰は望んでいる事がらの保証です。**「さて、信仰は、望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです(ヘブル人への手紙11章1節)」**

**「どうか、私たちのうちに働く御力によって、私たちが願うところ、思うところのすべてをはるかに越えて行うことの出来る方に(エペソ3章20節)」**

**みなさん!順序をよく思いだしてみてください。信仰の器が先です！その次にその信仰の器に神様が祝福で満たして下さいます！あなたが備える信仰の器通りに、神様は祝福し、それに満たして下さいます！**

とにかく、エリシャに訪ねて来た未亡人と二人の息子は、エリシャが命じたどおりに従います。隣のみなさんに行って出来る限りの器を借りて来ます。そして、エリシャが命じた通りに、うしろの戸を閉じて、器に自分たちの持っていた油をつぎます。そしたら、すべての空き器に油が満たされました。

ところが、ここでどうして戸を閉めて油をつぐようにさせたのでしょうか。

おそらく周りの信仰のない人々が見ないようにしたのではないかと思います。以前神の人エリヤも奇跡を起こす時、戸を閉めるようにさせました。神様の御わざと力は信じる者だけが経験できる特別な祝福であるという意味ではないでしょうか。

本文7節で、器に満たされた油を売って負債を払うことだけではなく、残りで、これから生活もできるようにもなりました。

神様の祝福が満ち溢れます。我々が求め、考えるよりさらに満ち溢れます。借金だけではなく、これから必要な全ての生活費までも全て解決されました。それだけではなく、この貧しかった家庭を通して、結局周囲器を貸して下さった町の人たちにも共に祝福されるようにこの未亡人の家庭を神の祝福の源とさせ、周りにまで神の祝福が流されるように働かれるお方であることが分かります。ある小さな信仰を持っていた未亡人によってまわりの人々さえも結局神の祝福を満ちあふれさせ、流して下さるお方です。

ですから、今みなさんの家があるところ、住んでいるところは決して偶然ではないと信じます。今みなさんの家庭の中でも色々な悩みや問題が多くあっても、神に対するみなさんの信仰だけしっかり握り、保っていれば、必ず神は、みなさんの家庭を祝福の源として用いて、周りの隣人家庭や人々にまでも、その神の祝福に預かることを喜ばれる神のすばらしい計画がみなさんの家庭にもあることを忘れないで下さい。

**本日のメッセージを終らせます。**

我々は神様を信じている者たちです。神様を信じる子どもには特別な恩寵が、特別な神の祝福を体験することが出来るのです。今日のある未亡人の家庭に与えられた神の豊かな祝福が私たちの家庭にも臨まれ、満たされることを信じますか。アーメン！今日小さい油のつぼにふくまれている神の奇跡のメッセージは、今家庭の中にかかえている様々な問題に直面して、苦しんでいる我らのための神のメッセージであります。

ですから、今我らの家庭にある問題で悩み、苦しんでいる方々は落胆しないで下さい。あきらめないで下さい！

そして、自分一人で全部重荷を負おうとしないで下さい。

みなさんが持っている信仰が弱くても、小さくてもその信仰を保って共に神を信じている兄弟姉妹、神の家族と共に分ち合い、祈り合って見て下さい。共に助け合い、支え合って、祈り合って生きましょう。神への信仰をしっかり立たせてください。それでみなさんの家庭の問題と事情をご存じである神様に差し出し、神に委ね見て下さいませんか。必ず神はみなさんの信仰の器に必要なものを満たして下さることを体験するみなさんの家庭となると確信します！

みなさんや家庭の問題を神様に持って来て下さい。そしてエリシャに求めたように、みなさんの問題をもって祈って下さい。

今も神は等しく生きておられ御力をもって具体的に神の御手でみなさんを助けて下さいます！

**神様はみなさんの信仰の器の分だけを満たし、祝福して下さいます。自分の、自分の家庭が持っているものをちいさく、つまらないものだと思わないで下さい。**

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みんな！始まったこの10月、みなさんとみなさんの家庭の信仰の器の上にも等しく豊かに満ちあふれさせて下さる神の祝福がありますように！みなさんの全ての家庭が神の祝福の源として神の祝福を流していく全家庭となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！